



札内川の豊かな自然・取組

十勝川水系札内川は、礫河原を必要とする多種多様な動植物が生育・生息・繁殖場所であるとともに、河原を活用した河川利用が盛んなことでも知られています。しかしながら、近年、河道内の樹林化が著しい札内川では、かつて河道内で広く見られた礫河原が急速に減少しており、氷河期の遺存種であるケシウヤナギの更新地環境の衰退が懸念されています。

このことから、札内川特有の河川環境・景観を保全し、観光資源の魅力を向上させるため、既設ダムの放流を活用して河道内を攪乱させ、礫河原を再生する取組が行われています。



ダムからの中規模フラッシュ放流



事業実施前の札内川



事業実施中の札内川

中規模フラッシュ放流により動きやすい河道再生・維持し、中規模な出水等により礫河原の再生を促進

持続可能な河川管理を実現

(1) 自然の生態系プロセスによる礫河原再生

河道の水面縦断形の把握と旧流路へ引き込みきっかけづくり、さらにダムからの放流により、河道内の比高差を小さくし河原が再生しやすい河道を実現

(2) ライフサイクルコストの低減

林分の破壊と再生によって形成される河畔林はシフティングモザイク（動的平衡状態）と位置づけ、望ましい樹齢構造を目標とした順応的管理を実現

(3) 地域活性化

地域や観光産業等により再生した札内川を活用



土砂で埋まっていた旧流路がフラッシュ放流により形成・維持